

2004年世界アスベスト東京会議 (GAC2004) 報告書



2004年世界アスベスト東京会議(GAC2004)組織委員会

〒136-0071 東京都江東区亀戸7-10-1 Zビル5階

TEL(03)3636-3882

FAX(03)3636-3881

URL:<http://park3.wakwak.com/~gac2004/>

1. 名称

2004年世界アスベスト東京会議
Global Asbestos Congress 2004 in Tokyo (GAC2004)

2. 開催時期

2004年11月19(金)～21(日)、3日間

3. 開催場所

東京・早稲田大学国際会議場(〒169-0051 新宿区西早稲田1-20-14)

4. 会議の目的

アスベストの使用に内在するリスクの根絶に向けて、世界的規模で共同の努力が広がっています。国際労働機関(ILO)によれば、毎年200万人と推計される死亡労働災害のうち、アスベストによる死亡者だけで10万人にのぼっています。アスベストの有害な健康影響に対する関心の高まりを反映して、欧州連合(EU)では2005年1月までにアスベストの使用が禁止されることになり、他の地域においてもますます具体的な措置がとられるようになってきています。いまこそ、アスベストのリスクに対する足並みをそろえた行動を取り、リスクの開発途上国に対する移転をとめる、緊急の必要性があります。

2004年世界アスベスト東京会議の目的は、人類と環境に対するアスベストの有害な影響をいかにして最小化するのかを、国レベル及び国際的な文脈のなかで検証することにあります。会議ではまた、現に出現しつつあり、また今後予測される健康被害の増大にいかに対処していくのか、私たちの周囲にすでに使われてしまっている既存アスベストにいかに対処していくのかという方策も追求されることになるでしょう。

本会議が、アスベスト被災者とその家族、労働者、市民、医療関係者、ハイジニスト、専門家、弁護士、行政関係者、政策立案者、その他関心をもつ人々に、開かれた討論の場を提供することを期待しています。参加者は、国際的及び学際的な基礎のうえに、様々な経験や最新の知識を共有し、問題の所在を確認し、対処の仕方を議論し、また、共通の解決策を探ることができるでしょう。

今なお、アスベスト消費量やアスベスト問題に対する取り組みにおいて、著しいコントラストがみられる、アジアにおいて、このようなアスベストに関する世界会議が開催されるのは今回が初めてのことです。東京会議が、私たちの目の前にあるアスベスト・リスクに対する地球的な取り組みの前進に、新たなインパクトを与えることを期待しています。

5. 主催

2004年世界アスベスト東京会議組織委員会

(1) 委員長

天明佳臣 (全国労働安全衛生センター連絡会議議長、医師)

(2) 顧問

小木和孝 ((財)労働科学研究所主管研究員、元ILO労働条件環境局長)

鈴木武夫 (元国立公衆衛生院院長)

鈴木康之亮(米ニューヨーク・マウントサイナイ医科大学教授(地域・予防医学及び病理学))

広瀬弘忠 (東京女子大学文理学部教授(リスク・災害心理学))

(3) 組織委員

飯田勝泰 ((NPO)東京労働安全衛生センター事務局長)

井内康輝 (広島大学大学院医歯薬学総合研究科病理学教授(医学部長)、石綿・中皮腫研究会代表幹事)

上野満雄 (自治体労働安全衛生研究会事務局長、医師)

宇野林蔵 (横須賀じん肺被災者の会相談役)

大島寿美子(北星学園大学文学部心理・応用コミュニケーション学科助教授、科学ジャーナリスト)
富山洋子 (日本消費者連盟代表運営委員)
中地重晴 (環境監視研究所所長、有害化学物質削減ネットワーク(T-ウォッチ)代表)
中野孝司 (兵庫医科大学内科学呼吸器RCU科教授)
古川和子 (中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会)
マリ・クリスティーヌ(国連ハビタット親善大使、異文化コミュニケーター、TVパーソナリティー)
宮本一 (全国建設労働組合総連合(全建総連)労働対策部長)
村山武彦 (早稲田大学理工学部教授(複合領域))
森田明 (弁護士、神奈川大学法科大学院教授)

(4) 事務局長

古谷杉郎 (石綿対策全国連絡会議事務局長)

(5) 事務局次長

安間武 (化学物質問題市民研究会)

(6) 事務局

今井明 (カメラマン)

植草和則 (中皮腫・じん肺・アスベストセンター)

大内加寿子(アスベストについて考える会)

永倉冬史 (アスベスト根絶ネットワーク)

名取雄司 (亀戸ひまわり診療所、医師)

西田隆重 (じん肺・アスベスト被災者救済基金)

渡辺治子 (ノーウェア主宰、桑沢デザイン研究所非常勤講師)

(7) 国際委員

アニー・デボモニ (フランス:国立衛生医学研究所(INSERM)現代社会公衆衛生問題研究所(CRESP)研究部長)

ツシャ・カン・ジョシ (インド:労働・環境保健センター所長・プロジェクト・ディレクター)

ペク・トンミョン(白道明) (韓国:ソウル大学保健大学院産業保健学教授)

バリー・キャッスルマン (アメリカ:環境コンサルタント、『アスベスト:医学的・法的側面』の著者)

フェルナンダ・ギアナージ(ブラジル:労働安全衛生監督官、アスベスト曝露者協会)

ローリー・カザンアレン (イギリス:アスベスト禁止国際書記局(IBAS)コーディネーター)

6. 後援

厚生労働省／環境省／ILO駐日事務所／東京都

日本労働組合総連合会(連合)／日本医師会／日本弁護士連合会

日本経済新聞社／朝日新聞社

石綿・中皮腫研究会／エコケミストリー研究会／(社)日本化学会／日本環境学会／日本リスク研究学会／日本衛生学会／日本地質学会／廃棄物学会／(社)環境科学会／日本肺癌学会／(社)日本建築学会／(社)日本産業衛生学会／(社)日本水環境学会／(財)日本建築センター／(社)日本建築材料協会／(社)環境情報科学センター／田尻宗昭記念基金

ラマッチーニ協会／労働環境衛生学会(SOEH:アメリカ)／国際労働衛生会議・呼吸器障害科学委員会(SC-RD, ICOH)／ヨーロッパ労連(ETUC)／国際中皮腫研究会(IMIG)

7. 協賛

全日本自治団体労働組合(自治労)／全国建設労働組合総連合(全建総連)／日本教職員組合(日教組)／全日本港湾労働組合(全港湾)／全造船機械労働組合(全造船)／全日本水道労働組合(全水道)／全駐留軍労働組合(全駐労)／全国医療等関連労働組合協議会(全国医療)／全日本海員組合／日本消費者連盟／労働者住民医療機関連絡会議／中皮腫・じん肺・アスベストセンター／中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会

石綿対策全国連絡会議(BANJAN)

アスベスト禁止国際書記局(IBAS)

8. 組織委員会の開催状況

2003年1月3日		「IBASの提案:日本アスベスト会議」
2003年2月8日		石綿対策全国連絡会議第16回総会で呼びかけ
2003年4月30日	準備会議(横浜)	
2003年6月9日	第1回組織委員会(亀戸)	名称、趣旨、開催時期・会場の確認等
2003年6月30日	第2回組織委員会(亀戸)	プログラム・タイムテーブル叩き台の検討等
2003年7月14日		組織委員に趣意書最終案送付
2003年8月16日		ウェブサイト
2003年9月24日	第3回組織委員会(亀戸)	第一報検討等
2003年10月6日		第一報
2003年10月8日	第3回組織委員会(亀戸)	後援・協賛要請等
2003年11月27日	第4回組織委員会(早大)	第二報検討等
2004年1月1日		第二報
2004年1月11日	第5回組織委員会(早大)	パートスタッフ、メインテーマ、デザインプロジェクト
2004年2月18日		カラー・リーフレット案等
2004年3月15日		ビジュアル・メッセージ展応募開始
2004年3月28日	第6回組織委員会(早大)	会場使用計画案検討等
2004年4月10日	第1回プログラム会議	カラー・リーフレット、ニュースレター第1号
2004年4月17・22日		国際委員との打ち合わせ
2004年4月17-21日		プレイベント(東京・名古屋・大阪・松山・鹿児島・横須賀)
2004年5月14日	第7回組織委員会(早大)	収支予算案検討、事務局体制拡充等
2004年6月14日	第8回組織委員会(早大)	遂行体制、プログラム計画検討等
2004年7月12日	第2回プログラム会議	暫定プログラム案検討
2004年8月10日		ポスター
2004年8月22日	第9回組織委員会(早大)	全体作業スケジュール検討等
2004年9月19日	第10回組織委員会(亀戸)	予算案、動員計画、運営計画検討等
2004年10月9日	第11回組織委員会(早大)	アルバイトスタッフ、最終準備計画検討等
2004年10月28日	東京宣言案起草会議	
2004年11月6日	第12回組織委員会(早大)	最終チェック
2004年11月19-21日		2004年世界アスベスト東京会議本番
2004年12月2日		「ビジュアル・メッセージ展」選考結果発表
2004年12月7日		「ウェブ・アルバム」
2004年12月23日	第13回組織委員会(亀戸)	
2005年1月5日		ウェブサイトに「写真展」等
2005年1月29日	第14回組織委員会(亀戸)	

9. 事務局会議の開催状況

2003年12月11日	第1回事務局(亀戸)
2004年1月7日	第2回事務局(亀戸)
2004年2月9日	第3回事務局(亀戸)
2004年3月15日	第4回事務局(亀戸)
2004年4月2日	第5回事務局(亀戸)
2004年4月22日	第5回事務局(亀戸)
2004年5月17日	第6回事務局(亀戸)
2004年6月1日	第7回事務局(亀戸)
2004年6月7日	第8回事務局(亀戸)
2004年7月5日	第9回事務局(亀戸)
2004年7月26日	第10回事務局(亀戸)
2004年8月20日	第11回事務局(亀戸)

2004年8月31日 第12回事務局(亀戸)
 2004年9月16日 第13回事務局(亀戸)
 2004年10月6日 第14回事務局(亀戸)
 2004年10月18日 第15回事務局(亀戸)
 2004年10月23日 ボランティア等説明会(亀戸)
 2004年11月5日 現地リハーサル
 2004年11月6日 ボランティア等説明会(早大)
 2004年11月8日 第16回事務局(亀戸)
 2004年11月15日 第17回事務局(亀戸)
 2004年11月17・18日 海外参加者出迎・会場設営等
 2004年12月17日 ボランティア等報告会(亀戸)

10. 会議の内容(9～21頁「プログラム」参照)

- ① 全体会議(開会式、7セッション、閉会式)
- ② ワークショップ(8セッション+ILO2000シャウカステン・セミナー)
- ③ ポスター・セッション
- ④ 写真展「静かな時限爆弾＝アスベスト:被災者からのメッセージ」
- ⑤ ビジュアル・メッセージ展(応募22作品、ウェブ・会場投票・審査委員の選考により入賞7作品)
- ⑥ 展示ブース(企業12社+NPO2団体)
- ⑦ インターネットルーム
- ⑧ ウェルカムパーティ(参加者数:300名、余興:和太鼓愛好会「新田太鼓」)
- ⑨ 懇親会(参加者数:250名、余興:梅后流「江戸芸かっぽれ」、森英記さん)
- ⑩ 表彰(田尻賞、セリコフ賞、レイ・センテス賞、チョラオ賞—受賞者は14～15頁記載)
- ⑪ 国際建設労働組合組織の共同宣言(27頁に掲載、IFBWWのウェブサイトにも掲載
<http://www.ifbww.org/index.cfm?n=44&l=2&c=1360&on=2>)
- ⑫ 東京宣言(28頁に掲載、http://park3.wakwak.com/~gac2004/jp/index_declaration_j.html)

11. 発表

	合計	国内	海外
合計	150本	60本	90本
全体会議(1～7)	68本	29本	39本
ワークショップ(A～H)	51本	28本	23本
ポスター	24本	3本	21本
論文提出	7本		7本

12. 参加者数

	参加者数
合計	799名
海外参加者	118名 (22～26頁「海外参加者」参照)
労働組合・団体関係	240名
被災者・家族関係	44名
一般参加者	85名
当日参加者	68名
座長・演者	60名
来賓・報道	18名
スタッフ・通訳	130名
ブース出展者	36名

参加者の内訳は、アスベスト被災者とその家族、市民、労働者、それらの団体の代表、医療従事者、弁護士、様々な分野の専門家・研究者、行政関係者等々

13. 記録・報告

- ① 報告書(本文書)
- ② 抄録—150本の発表すべてについて日本語・英語版を整備
→ウェブサイトに掲載(http://park3.wakwak.com/~gac2004/jp/index_abstract_j.html)
- ③ 写真展「静かな時限爆弾＝アスベスト:被災者からのメッセージ」
→ウェブサイトに掲載(http://park3.wakwak.com/~gac2004/jp/index_exhibition1_j.html)
- ④ ビジュアル・メッセージ展
→ウェブサイトに掲載(http://park3.wakwak.com/~gac2004/jp/index_visual_j.html)
- ⑤ 写真記録
→ウェブサイトに掲載(http://park3.wakwak.com/~gac2004/jp/index_album_j.html)
- ⑥ 音声記録
大ホール—120分テープ 24本(日本語版・英語版各12本)→デジタル化 audio-CD 24枚
第2会議室—47分テープ 30本(日本語版・英語版各15本)→デジタル化 audio-CD 30枚
→上記全データをMPEGファイルに圧縮して、DVD-Audio 1枚に収録
- ⑦ ビデオ記録
大ホール—VHS120分12本→デジタル化 DVD-Video 12枚(音声記録方式の違いによる複数のバージョンあり)
第2会議室—mini DVD70分 11本→デジタル化 DVD-Video 11枚
他に閉会式・被災者セッションを収録したmini DVD70分 3本→デジタル化 DVD-Video 3枚
→上記データをWMVファイルに圧縮して、DVD-Video 1～数枚に収録
- ⑧ プロシーディングス
→2005年春を目途に、フルペーパーを中心に、CD 1枚のかたちで作成の予定

14. 収支決算

別添「収支決算書」(7～8頁)のとおり

15. 事後の対処

組織委員会は、本報告書の取りまとめ及び後援・協賛団体に対する報告事務の終了をもって解散し、それ以降対処が必要な問題(以下に例示)の処理については、石綿対策全国連絡会議に委ねるものとする。

メール・アカウント、ウェブサイト(最低3年間維持)の管理
報告書、DVD-Video・Audio、プロシーディングスの作成・配布
東京宣言及び世界会議の成果の宣伝・普及
世界会議の趣旨を引き継ぐ国内でのイベントの開催等
海外の関係団体・個人等との連絡・連携等

石綿対策全国連絡会議

〒136-0071 東京都江東区亀戸7-10-1 Zビル5階

TEL(03)3636-3882 FAX(03)3636-3881

<http://park3.wakwak.com/~banjan/>

収支決算書

2003年6月9日から2005年1月29日まで

	決算	最終予算	増減・備考
1. 収入の部	32,308,032円	32,000,000円	+308,032円
寄付金	26,532,126円	26,500,000円	32,126円
国内寄付金	18,905,015円	18,872,889円	
海外寄付金	7,627,111円	7,627,111円	=\$70,000
展示ブース収入	2,300,000円	2,600,000円	-300,000円
登録料	2,843,592円	2,400,000円	+443,592円
懇親会費	595,000円	500,000円	+95,000円
雑収入	37,314円		+37,314円
2. 支出の部	29,953,968円	32,000,000円	-2,046,032円
会議費	2,565,765円	3,000,000円	-434,235円
会場使用料	1,130,595円	1,400,000円	-269,405円
機器使用料	562,200円	800,000円	-237,800円
同通機器レンタル料	0円	0円	無償貸与
WS機器操作オペレータ等	388,500円	500,000円	-111,500円
PS機器操作オペレータ等	484,470円	300,000円	+184,470円
同時通訳費	2,124,315円	2,000,000円	+124,315円
会場設営費	3,571,050円	3,500,000円	+71,050円
電気機器費	360,520円	1,200,000円	-839,480円
PC・インターネット関係	196,720円	850,000円	-653,280円
NTT・電気増設	42,000円	140,000円	-98,000円
シャウカステン	121,800円	130,000円	-8,200円
その他	0円	80,000円	-80,000円
イベント費	1,576,010円	1,600,000円	-23,990円
写真展	976,010円	800,000円	+176,010円
ビジュアル・メッセージ展	600,000円	600,000円	
その他	0円	200,000円	-200,000円
飲食費	3,466,101円	4,000,000円	-533,899円
昼食・ドリンク代	655,650円	550,000円	+105,650円
ウエルカム・パーティ代	831,000円	1,000,000円	-169,000円

ソーシャル・パーティ代	1,879,451円	2,000,000円	-120,549円
その他	100,000円	450,000円	-350,000円
海外ゲスト招聘費	4,338,358円	5,500,000円	-1,161,642円
準備・管理費	10,951,849円	9,400,000円	1,551,849円
人件費	2,143,948円	2,500,000円	-356,052円
旅費交通費	1,664,115円	700,000円	+964,115円
印刷費	3,433,432円	3,000,000円	+433,432円
通信運搬費	323,077円	500,000円	-176,923円
事務・消耗品費	397,788円	500,000円	-102,212円
翻訳謝礼	564,748円	700,000円	-135,252円
アルバイト料・謝礼	607,420円	1,000,000円	-392,580円
事務所費	1,500,000円		
雑費	317,321円	500,000円	-182,679円
報告書作成費	1,000,000円	1,000,000円	±0円(報告書、DVD-Audio・Video等)
予備費		800,000円	

	決算	最終予算	備考
3. 剰余金	2,354,064円		

現金	5,656円
預金	928,038円
郵便振替	1,420,370円

4. 剰余金の処理



預託金	2,354,064円
差し引き	0円

石綿対策全国連絡会議

会計監査報告

監査の結果、適正に処理され、相違ないことを報告します。

2005年2月7日

富山洋子 
 村山武彦 

プログラム

全体会議セッション (井深大記念ホール)	ワークショップ (第2会議室)	その他 (第1・3会議室、ロビー他)
2004年11月19日(金)		
09:30-12:30 開会式: セッション1: アスベストの地球的健康影響:緊急 の行動の必要性		09:30-18:30 写真展(1階ロビー)
12:30-13:30(昼食休憩)		12:30-18:30 ポスター・セッション(16:00-17:00 質疑応答時間)、ビジュアル・メッ セージ展(第3会議室)
13:30-16:00 セッション2: 環境曝露・危機管理・リスクコミュニ ケーション	14:30-16:00 WS-A: アジア・ネットワーク:目標と 行動	展示ブース(第1会議室・3階ロビ ー)
16:00-17:00(休憩)		
17:00-19:30 セッション3: 被災者・家族のエンパワーメント	17:45-19:30 WS-B: 建設とアスベスト	
		20:00- ウェルカムパーティ
2004年11月20日(土)		
09:30-12:30 セッション4: 医学的側面:アスベスト関連疾患の 診断・治療等	09:30-11:00 WS-C: 労働組合のイニシアティブ	09:30-18:30 写真展(1階ロビー)
	11:10-12:30 WS-D: アスベスト訴訟	ポスター・セッション(16:00-17:00 質疑応答時間)、ビジュアル・メッ セージ展(第3会議室)
12:30-13:30(昼食休憩)		展示ブース(第1会議室・3階ロビ ー)
13:30-16:00 セッション5: アスベスト被害に対する補償	13:30-15:30 WS-E: 疫学・公衆衛生・予防	
16:00-17:00(休憩)	15:45-17:15	
17:00-19:30 セッション6:既存アスベストの把握・ 管理・除去・廃棄	ILO2000シャウカステン・セミナー	
	17:45-19:30 WS-F: 被災者・支援組織	
		20:00- 懇親会
2004年11月21日(日)		
09:30-10:30 WS-G: 多国籍企業・海外移転	09:30-10:30 WS-H: 造船とアスベスト	09:30-12:30 写真展(1階ロビー)
10:40-13:45 セッション7: アスベスト・リスクのない世界:明日 への戦略 ワークショップ報告:表彰式: 閉会式:		ポスター・セッション(16:00-17:00 質疑応答時間)、ビジュアル・メッ セージ展(第3会議室)
		展示ブース(第1会議室・3階ロビ ー)

全体会議

2004年11月19日(金)

09:30 - 09:53, 井深大記念ホール

開会式

司会: 富山洋子、古谷杉郎

古川祐二(厚生労働省労働基準局安全衛生部化学物質対策課長[日本])
野田功(東京都環境局環境改善部大気保全課長[日本])
堀内光子(国際労働機関(ILO)駐日代表)
林誠子(日本労働組合総連合会(連合)副事務局長[日本])
フィオーナ・マリー(国際建設木産労働組合連盟(IFBWW)労働安全環境部長[スイス])
ローリー・カザンアレン(アスベスト禁止国際書記局(IBAS)コーディネーター[イギリス])
天明佳臣(GAC2004組織委員会委員長[日本])

09:55 - 12:35, 井深大記念ホール

セッション1: アスベストの地球的健康影響: 緊急の行動の必要性

座長: 小木和孝、ローリー・カザンアレン

- PL-1-01 世界貿易機関(WTO)における貿易紛争がアスベスト禁止に向けた世界的努力に及ぼした影響
バリ・キャッスルマン(環境コンサルタント[アメリカ])
- PL-1-02 中皮腫の地理学: 概観
クラウディオ・ピアンチ(イタリア対がん協会・環境がん研究センター[イタリア])
- PL-1-03 アスベスト関連疾患の流行
村山武彦(早稲田大学理工学部(複合領域)[日本])
- PL-1-04 南アフリカにおけるアスベスト関連疾患の負担と賠償請求の闘い
ソフィア・キスティング(ケープタウン大学公衆衛生・家庭医学校労働・環境衛生部[南アフリカ])
[不参加]
代理報告: フレッド・ゴーナ(全国鉱山労働組合[南アフリカ])

討論

パネル: アジアで現出しつつある健康影響の状況

座長: 高橋謙、ノア・ジーハン

- PL-1-05 韓国のアスベストに対する戦略
ベク・トンミョン(白道明)(ソウル大学保健大学院産業保健学[韓国])
- PL-1-06 中国におけるアスベスト使用と健康影響の現状(→WS-E-10に変更)
リー・タオ(李涛)(中国疾病予防控制中心職業衛生与中毒控制所[中国])
- PL-1-07 ベトナムにおけるアスベスト・セメント屋根材製造工場の環境汚染の現状とその労働者への健康リスク
グイ・ゴックトアン(国立労働保護研究所(NILP)[ベトナム])
- PL-1-08 アスベストの地球的健康影響: タイの経験
ソムキャット・スリルタンナプラク(タイ政府公衆衛生省労働衛生部[タイ])
- PL-1-09 インド・南アジアにおけるアスベストをめぐる議論
ツシャ・カン・ジョシ(労働・環境保健センター[インド])
- PL-1-10 アスベスト・リスク: パキスタンにおける職業的及び傍職業的保健状況
ノア・ジーハン(ベシヤワール大学環境科学部[パキスタン])

討論

セッション2: 環境曝露・危機管理・リスクコミュニケーション

座長: マリ・クリスティーヌ、大島寿美子

- PL-2-01 世界貿易センター応答者にみられた健康影響
ステファン・レービン(マウントサイナイ医科大学アーヴィングJセリコフ労働・環境医学センター世界貿易センター労働者・ボランティア医学スクリーニングプログラム[アメリカ])
- PL-2-02 阪神・淡路大震災における建築物解体に伴うアスベスト飛散
寺園淳(独立行政法人国立環境研究所社会環境システム研究領域・循環型社会形成推進・廃棄物研究センター[日本])
- PL-2-03 バングラディッシュにおける船舶解撤をめぐるアスベスト問題
チャウドリー・レーボン(バングラディッシュ労働安全衛生環境財団[バングラディッシュ])
- PL-2-04 マレーシアにおけるアスベスト問題に対する消費者の取り組み
サンビャッパ・ジャヤバラ(ペナン消費者協会[マレーシア])
- PL-2-05 アスベストの山影に暮らす(南アフリカにおけるアスベストによる環境汚染のリスクに基づいた浄化戦略の必要性)
ロバート・ジョーンズ(ローデス大学環境科学学部[南アフリカ])
- PL-2-06 リスクコミュニケーション—保育園児童曝露事件の事例研究
内山巖雄(京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻[日本])
- PL-2-07 学校に残る吹き付けアスベスト問題をめぐるリスクコミュニケーションの教訓
池尻成二(東京・練馬区議会議員[日本])
- PL-2-08 吹き付けアスベストのある店舗での勤務が原因で発症したと考えられる悪性胸膜中皮腫の一例
名取雄司(ひらの亀戸ひまわり診療所[日本])

討論

セッション3: 被災者・家族のエンパワーメント

座長: 名取雄司、アニー・デゴモニ

日本のアスベスト被災者・家族によるパネル・ディスカッション

- PL-3-01 アスベスト被災者・相談・支援の活動
名取雄司(中皮腫・じん肺・アスベストセンター[日本])
- PL-3-02 中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会の活動
植草和則(中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会[日本])
- PL-3-03 造船アスベスト肺の私の苦しみ
宇野林蔵(中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会[日本])
- PL-3-04 病と闘いながら
加藤徳雄(中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会[日本])[故人]
代理報告: 飯田勝泰(東京労働安全衛生センター[日本])
- PL-3-05 石綿関連肺がん患者の立場から
斉藤文利(中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会[日本])
- PL-3-06 悪性胸膜中皮腫—夫を失って—
大森華恵子(中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会[日本])
- PL-3-07 悪性腹膜中皮腫—父を看取った経験から—
斉藤美恵(中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会[日本])
- PL-3-08 石綿関連肺がん—夫を失って—
古川和子(中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会[日本])
- PL-3-09 区立S保育園園児の石綿暴露災害における保護者活動とエンパワーメント

- 匿名(S保育園保護者[日本])
- PL-3-10 フランスにおける被災者・家族のエンパワーメント
アニー・デボモニ(国立衛生医学研究所(INSERM)現代社会公衆衛生問題研究所(CRESP)
[フランス])
- PL-3-11 発展途上国におけるアスベスト被災者の状況と取り組み:ブラジル—ABREA
フェルナンダ・ギアナージ(労働安全衛生監督官、アスベスト曝露者協会[ブラジル])
- PL-3-12 ケベック州のアスベスト鉱山地帯の環境保全
ロッシュ・ランシェール(ケベック・アスベスト被災者協会(AVAQ)[カナダ])
- PL-3-13 世界の公衆衛生に対するアスベスト被災者の貢献
ジェームズ・フィット(白い肺協会(WLC)[アメリカ])
- PL-3-14 著書『私に寄り添って:介護者からみたアスベストがん』
ローライン・ケンパー([オーストラリア])
- PL-3-15 インドにおけるアスベスト被災者の窮状
ゴパール・クリシュナ(アスベスト禁止インド(BANI)、トキシック・リンク[インド])
- 討論

2004年11月20日(土)

09:30 - 12:30, 3時間, 井深大記念ホール

セッション4: 医学的側面:アスベスト関連疾患の診断・治療等

4-A: 中皮腫の病因論・免疫学

座長:鈴木康之亮、井口弘

- PL-4-01 ヒトの悪性中皮腫168例の肺及び中皮組織におけるアスベスト繊維の分析
鈴木康之亮(マウントサイナイ医科大学(地域・予防医学及び病理学)[アメリカ])
- PL-4-02 日本における中皮腫—その病理学的特徴
井内康輝(広島大学大学院医歯薬学総合研究科病理学、石綿・中皮腫研究会[日本])
- PL-4-03 悪性胸膜中皮腫切除例の臨床病理学的検討
廣島健三(千葉大学大学院医学研究院基礎病理学[日本])
- PL-4-04 PCR-SSCP法による悪性胸膜中皮腫における上皮成長因子受容体遺伝子変異の検討
高部和彦(土浦協同病院[日本])
- PL-4-05 HTLV-1で不死化されたヒト多クローン細胞株(MT-2)のアスベスト(クリソタイルB)抵抗亜株
の細胞特性
大槻剛巳(川崎医科大学衛生学部[日本])
- PL-4-06 アスベスト及びその代替繊維の刺激により惹き起こされる酸化ストレス—マクロファージにお
けるニトロソチオール及びグルタチオンレベルの変化
西池珠子(兵庫医科大学衛生学[日本])
- PL-4-07 アスベスト曝露による肺泡マクロファージの機能変化:TGF- β 産生、アポトーシスおよび多核
巨細胞形成
西村泰光(兵庫医科大学衛生学[日本])

討論

4-B: アスベスト関連疾患の診断及び治療

座長:ブルース・ロビンソン、中野孝司

- PL-4-08 アスベスト関連疾患の臨床診断
ゲンナー・ヒラーダ(カロリンスカ大学病院胸部医学部[スウェーデン])
- PL-4-09 中皮腫の新たな治療方法と血液検査を用いた早期発見
ブルース・ロビンソン(ウエスタン・オーストラリア大学医学部[オーストラリア])
- PL-4-10 悪性胸膜中皮腫に対するイリノテカンをベースにした化学療法
宮田茂(兵庫医科大学総合内科呼吸器・RCU科[日本])
- PL-4-11 アスベスト関連疾患のためのヘルシンキ・クライテリア

アンティ・トサバイネン(フィンランド労働衛生研究所(FIOH)産業衛生・毒物学部門[フィンランド])

PL-4-12 アスベスト曝露に関連したびまん性胸膜肥厚
三浦溥太郎(横須賀共済病院[日本])

PL-4-13 ILO2000レントゲン写真を用いた中皮腫と良性胸膜炎の鑑別
日下幸則(福井大学医学部国際社会医学講座環境保健学領域[日本])

討論

13:30 – 16:00, 井深大記念ホール

セッション5: アスベスト被害に対する補償

座長: 森田明、牛島聡美

PL-5-01 環境曝露・家庭内曝露事例に対する補償
ボブ・ルアーズ(弁護士、前オランダ上院議員、オランダ・アスベスト協会設立メンバー[オランダ])

PL-5-02 アスベスト関連疾患の労災補償: 国際比較
古谷杉郎(石綿対策全国連絡会議・全国労働安全衛生センター連絡会議[日本])

PL-5-03 日本におけるアスベスト訴訟の概要
森田明(弁護士、神奈川大学法科大学院[日本])

PL-5-04 保育園児童曝露事件損害賠償請求事件
牛島聡美(弁護士、牛島聡美法律事務所[日本])

PL-5-05 オーストラリアにおけるアスベスト訴訟: 過去の傾向と今後の方向
ティム・ハモンド(弁護士、スレーター&ゴードン法律事務所[オーストラリア])

PL-5-06 ニュー・サウス・ウェールズにおけるアスベスト訴訟
ジョン・オミーリー(判事、ニュー・サウス・ウェールズ粉じん疾患裁判所[オーストラリア])

PL-5-07 フィリピンの訴訟: スービック海軍基地でアメリカ海軍に置き去られたアスベスト被害者たち
アレクサンダー・ラクノン(弁護士、スービック・アスベスト肺被害者協会、基地汚染除去対策市民会議[フィリピン])

PL-5-08 アスベストとマネー: 南アフリカのアスベスト訴訟原告の立場から
リンダ・ウォルドマン(サセックス大学開発学研究所[イギリス])

討論

PL-5-09 国境を超えたアスベスト訴訟: ケープ訴訟事件
リチャード・ミーラン(弁護士、スレーター&ゴードン法律事務所[オーストラリア]) [不参加・論文提出]

17:00 – 19:30, 井深大記念ホール

セッション6: 既存アスベストの把握・管理・除去・廃棄

座長: 中地重晴、アンダース・エンゲルンド

PL-6-01 建設部門におけるアスベスト・リスクの予防
アンダース・エンゲルンド(ウメ大学公衆衛生臨床医学部労働医学科[スウェーデン])

PL-6-02 アスベスト管理・作業者のトレーニングと能力に関する国際的最低基準
マックス・ロパッキ(国立アスベスト訓練認証機構(NATAS)[イギリス]) [不参加]

PL-6-03 ウィーン・インターナショナル・センターにおけるアスベスト管理計画
ハインツ・クロピュニック(アエタス建築設計事務所[オーストリア])

PL-6-04 ケース・スタディ: 元カセロス刑務所—アルゼンチン初のアスベスト除去プロジェクト
スザーナ・ミュールマン(建築士、ブエノスアイレス市アスベスト除去手順・法的側面アドバイザー[アルゼンチン])

PL-6-05 COSLA(スコットランド地方当局協定)レポート
アンディ・ホワイト(ウエスト・ダンバートン市議会[イギリス])

- PL-6-06 既存アスベスト・セメント製品の修理と維持管理に関する新しい規格
アンディ・オバータ (ASTM国際ナショナル・アスベスト管理作業グループ [アメリカ])
- PL-6-07 アメリカ・メリーランド州における学校、産業および環境のアスベスト管理プログラム
マーデル・ナイト (メリーランド州政府環境局 [アメリカ])
- PL-6-08 PRTRデータから見た日本のアスベスト使用状況と環境中への排出量
中地重晴 (環境監視研究所・有害化学物質削減ネットワーク (Tウオッチ) [日本])

討論

2004年11月21日(日)

10:40 - 13:00, 井深大記念ホール

セッション7: アスベスト・リスクのない世界: 明日への戦略

座長: 天明佳臣、バリー・キャッスルマン

- PL-7-01 アスベストの管理使用から主要なアスベスト製品の禁止へー日本のプロセス: 2002年6月～
2004年10月
大内加寿子 (アスベスト問題について考える会 [日本])
- PL-7-02 アスベスト全面禁止後の欧州連合 (EU) における状況
ローラン・ボーゲル (ヨーロッパ労連労働安全衛生部 (ETUC-TUTB) [ベルギー])
- PL-7-03 中国におけるアスベスト使用の研究: 挑戦と機会
アーサー・フランク (ドレクセル大学公衆衛生学 [アメリカ])
- PL-7-04 ベトナムにおける非アスベスト繊維セメント屋根材への代替物質使用の可能性
ダン・ディンティ (国立労働保護研究所 (NILP) [ベトナム])
- PL-7-05 アジアにおけるアスベスト関連疾患の拡大を止めるためのイニシアティブ
高橋謙 (産業医科大学産業生態科学研究所環境疫学研究室 [日本])
- PL-7-06 アジアにおけるアスベスト禁止: 労災被災者の権利のためのアジア・ネットワーク (ANROAV)
のキャンペーンと戦略
サンジ・パンディタ (アジア・モニター・リソース・センター (AMRC) / 労働災害被災者の権利のため
のアジア・ネットワーク (ANROAV) [香港])
- PL-7-07 地球規模のアスベスト禁止に向けた労働組合のキャンペーン
フィオーナ・マリー (国際建設木産労働組合連盟 (IFBWW) [スイス])
- PL-7-08 アスベストのない世界に向けて!
ローリー・カザンアレン (アスベスト禁止国際書記局 (IBAS) [イギリス])

討論

13:00-13:45, 井深大記念ホール

閉会式

座長: 天明佳臣、バリー・キャッスルマン

ワークショップ報告

大島寿美子 (北星学園大学文学部、科学ジャーナリスト [日本])

世界アスベスト会議における国際建設労働組合組織の共同宣言

発表: フィオーナ・マリー (国際建設木産労働組合連盟 (IFBWW) [スイス])

東京宣言

発表: 天明佳臣 (2004年世界アスベスト東京会議組織委員会委員長 [日本])

起草委員会: 天明佳臣、ペク・トンミョン、ツシャ・カン・ジョシ、バリー・キャッスルマン、フェルナン
ダ・ギアナージ、フィオーナ・マリー、ローラン・ボーゲル、ローリー・カザンアレン

田尻賞表彰

贈呈者: 斎藤竜太 (田尻宗昭記念基金世話人 [日本])

受賞者:フェルナンダ・ギアナージ

セリコフ賞表彰

贈呈者:アーサー・フランク、鈴木康之亮

受賞者:ツシヤ・カン・ジョシ

2004年レイ・センテス賞表彰

贈呈者:カイラ・センテス

受賞者:2004年世界アスベスト東京会議組織委員会

セバスチャン・アラレシド・アルベス・デ・シルバ(チヨラオ)記念賞表彰

贈呈者:フェルナンダ・ギアナージ

受賞者:古谷杉郎

閉会挨拶

天明佳臣(2004年世界アスベスト東京会議組織委員会委員長[日本])

ワークショップ

2004年11月19日(金)

14:30 – 16:00, 第2会議室

ワークショップA: アジア・ネットワーク: 目標と行動

座長:古谷杉郎、ツシヤ・カン・ジョシ

- WS-A-01 OHSEI(アジア労働者労働安全衛生環境研究所)とアスベスト
ジェスファー・クリステンセン(アジア労働者安全衛生環境研究所(OHSEI)[タイ])[不参加・論文提出]
- WS-A-02 アスベスト禁止における労働組合の役割
マドゥカー・パンディー(インド労働組合センター(CITU)[インド])
- WS-A-03 香港におけるアスベスト問題
チャン・カンホン(陳康錦)(勞工傷亡權益会(ARIAV)[香港])
- WS-A-04 台湾におけるアスベスト問題の現状
リー・ジュンカイ(台湾工作傷害受害人協会(TAVOI)[台湾])
ホ・クアンワン(賀光汎)(台湾工作傷害受害人協会(TAVOI)[台湾])
通訳:チャン・ヤティン(台湾工作傷害受害人協会(TAVOI)[台湾])

討論

17:45 – 19:30, 第2会議室

ワークショップB: 建設とアスベスト

座長:外山尚紀、アンダース・エンゲルンド

- WS-B-01 建設労働者におけるアスベスト関連の医学的所見と予防教育
平野敏夫(亀戸ひまわり診療所[日本])
- WS-B-02 東京建設業国民健康保険組合でのじん肺関連レセプトチェックについて
山田恭市(東京建設業国民健康保険組合[日本])
- WS-B-03 全建総連東京都連合会のじん肺・アスベスト対策の取り組み
渡邊守光(全国建設労働組合総連合東京都連合会[日本])
- WS-B-04 東京土建のじん肺アスベスト対策の取り組み
三宅一也(東京土建一般労働組合[日本])
- WS-B-05 参加型アプローチによる建設現場での安全衛生活動
外山尚紀((NPO)東京労働安全衛生センター[日本])
- WS-B-06 建設業従事者の石綿曝露、健康影響及び死因に関する調査研究

柴田英治(愛知医科大学医学部衛生学講座[日本])

WS-B-07 アスベスト・セメント(AC)屋根材の表面及びアスベスト飛散リスクのアセスメント
ジェルジー・ディクゼック(クラクフ鉱山・冶金工科大学建材工学部[ポーランド])

WS-B-08 「白い敵」を突きとめる:建築物に使われたアスベストを把握するための簡単なガイド
スザーナ・ミュールマン(建築士、ブエノスアイレス市アドバイザー[アルゼンチン])

討論

2004年11月20日(土)

09:30 – 11:00, 第2会議室

ワークショップC: 労働組合のイニシアティブ

09:30-09:32 座長:山口茂記、宮本一

日本の労働組合代表者によるパネル

WS-C-01 地域労働運動からのアスベストに対する取り組み
森田洋郎(全日本自治団体労働組合(自治労)[日本])

WS-C-02 建設労働者へのアスベスト曝露防止と労災補償
佐藤正明(全国建設労働組合総連合(全建総連)[日本])

WS-C-03 労働組合の社会的責任が問われたアスベスト問題
水口欣也(全日本造船機械労働組合(全造船)[日本])

WS-C-04 水道管布設工事における新たなアスベスト被害拡大の防止並びに職員・退職者等のアスベ
スト曝露に関する健康影響調査について
渡辺洋(全日本水道労働組合(全水道)[日本])

WS-C-05 アスベスト被害補償制度の取り組み
紺谷智弘(全駐留軍労働組合(全駐労)[日本])

WS-C-06 県立高校施設におけるアスベスト問題
藤本泰成(日本教職員組合(日教組)[日本])

討論

11:10 – 12:30, 第2会議室

ワークショップD: アスベスト訴訟

座長:古川武志、バリー・キャッスルマン

WS-D-01 ジョンズ・マンビル社に対する補償請求
遠藤直哉(弁護士、桐蔭横浜大学法学部[日本])

WS-D-02 米海軍横須賀基地石綿じん肺訴訟について
古川武志(弁護士、古川武志法律事務所[日本])

WS-D-03 横須賀・造船働者のじん肺・アスベスト訴訟
野村和造(弁護士、神奈川総合法律事務所[日本])

WS-D-04 弁護団と原告団が車の両輪となった裁判闘争
太田哲郎(三菱長崎造船じん肺訴訟第一次原告団[日本])

WS-D-05 日本で初めての火力発電所職員の悪性中皮腫
白石昭夫((NPO)愛媛労働安全衛生センター事務局長[日本])

WS-D-06 アスベスト家庭曝露災害損害賠償請求事件
村上博子(日本エタニットパイプ分会[日本])

WS-D-07 中皮腫で死亡したホテル・ボイラーマンの事例
松田竜(弁護士、小寺・松田法律事務所[日本])

討論

13:30 – 15:30, 第2会議室

ワークショップE: 疫学・公衆衛生・予防

座長: グンナー・ヒラーダ、井内康輝

- WS-E-01 女性の健康と環境曝露/パキスタン・ノースウェストフロンティア州マルダン地区サライ・キリにおける廃船舶からのアスベスト・リスク
ノア・ジーハン(ペシャワール大学環境科学部 [パキスタン])
- WS-E-02 クリソタイルに曝露した南アフリカ鉱山解雇労働者におけるアスベスト関連疾患の過剰発生が意味するもの
ソフィア・キスティング(ケープタウン大学公衆衛生・家庭医学校労働・環境衛生部 [南アフリカ]) [不参加]
- WS-E-03 クリソタイル・アスベスト織物労働者の歴史的コホートにおける中皮腫の発症
カルロ・マーモ(トリノ・ピエモンテ地区疫学ユニット [イタリア])
- WS-E-04 環境ハザードとしてのアスベスト—シチュエン地域の事例
ネオニーラ・スゼスゼニア・ダブロウスカ(ノファー労働医学研究所 [ポーランド])
- WS-E-05 鉄骨工の肺がん死亡率はなぜ高いか?
久保田均(独立行政法人産業医学総合研究所 [日本])
- WS-E-06 日本人一般集団における肺癌患者の肺内アスベスト濃度の年代による変化
石川雄一((財) 癌研究会癌研究所病理部 [日本])
- WS-E-07 クリソタイル・アスベストは発展途上諸国において安全で健康か?
ズルミア・ヤンリ(インドネシア共和国 [インドネシア])
- WS-E-08 タイのアスベスト製造業における健康への危険性評価のための研究プロジェクト
ウィサンチ・ラオハウデムコック(労働安全衛生センター (NICE) 労働保護福祉局 [タイ])
- WS-E-09 製鉄所におけるアスベスト対策について
宇土博(広島文教女子大学人間科学部教授 [日本])
- WS-E-10 中国におけるアスベスト使用と健康影響の現状(→WS-E-10から変更)
リー・タオ(李涛)(中国疾病予防控制中心職業衛生与中毒研究所 [中国])

討論

- WS-E-11 ブラジルのアスベスト使用地域における労働者の総合的な健康診断システムの導入
ヒルマーノ・カストロ(CESTEH/ENSP/FIOCRUZ 合同プロジェクト(オズワルド・クルツ財団) [ブラジル]) [不参加・論文提出]
- WS-E-12 アスベスト系の手紡ぎ女性労働者における悪性腫瘍による死亡調査
チャン・シン(張幸)(浙江省医学科学院 [中国]) [不参加・論文提出]
- WS-E-13 アスベスト代替品も危険か?
レザ・ゴーラムニア(ウロミナ医科大学 [イラン]) [不参加・論文提出]
- WS-E-14 ロンバルディア中皮腫登録(イタリア北部)3年間の調査結果
カロライナ・メンシ(ミラノ大学労働衛生学部 [イタリア]) [不参加・論文提出]
- WS-E-15 中皮腫発生減少の見込みを予測するための曝露情報とノルディック諸国の発症データの活用
スベレ・ランガード(リクスホスピタレ大学病院労働・環境医学センター [ノルウェー]) [不参加]

17:45 – 19:30, 第2会議室

ワークショップF: 被災者・支援組織

座長: 植草和則、カイル・センテス

- WS-F-01 被災者が被災者を支援する
ジョン・フラナガン(マージーサイド・アスベスト被災者支援グループ(リバプール) [イギリス])
- WS-F-02 アスベスト疾患が患者・家族にもたらす心理・社会的影響
ミシェル・オリヴィア・ハックス・フィット(白い肺協会 (WLA) [アメリカ])
- WS-F-03 イヤー・オブ・アスベスト禁止カナダ (BAC)
カイル・センテス(アスベスト禁止カナダ (BAC) [カナダ])
- WS-F-04 西オーストラリアにおけるアスベスト疾患の医学的診断と法医学的診断の対立

- WS-F-05 グレゴリー・デリユール(オーストラリア・アスベスト疾患協会(ADSA)[オーストラリア])[不参加]
正義のための闘い:インド・グジャラートにおけるアスベスト被災者の事例報告
ラグナス・マンバール(労働安全衛生協会、グジャラート州アヘンダバード[インド])
マンガブハイ・パテル(アスベスト肺患者、グジャラート州アヘンダバード[インド])
- WS-F-06 横須賀におけるじん肺・石綿疾患問題の取り組みー被災者・支援組織の運動をもとにー
安元宗弘(横須賀じん肺被災者の会・横須賀中央診療所[日本])
- WS-F-07 三菱長崎造船所の石綿被害と患者会活動
塚原繁次(三菱長崎造船じん肺患者会[日本])
- WS-F-08 ブラジルのアスベスト・マフィアに対抗して:最後の闘い
フェルナンダ・ギアナージ(労働安全衛生監督官、アスベスト曝露者協会[ブラジル])

討論

2004年11月21日(日)

09:30 - 10:30, 井深大記念ホール

ワークショップG: 多国籍企業・海外移転

座長:村山武彦、ペク・トンミョン(白道明)

- WS-G-01 日本のアスベスト関連企業の海外進出の状況
村山武彦(早稲田大学理工学部教授(複合領域)[日本])
- WS-G-02 アスベスト製品の地球的フェイズアウト
バリー・キャッスルマン(環境コンサルタント[アメリカ])
- WS-G-03 労働者に反する多国籍企業:フランスとブラジルにおけるサンゴバンの戦略
アニー・デボモニ(国立衛生医学研究所(INSERM)現代社会公衆衛生問題研究所(CRESP)[フランス])
- WS-G-04 国際的アスベスト・カルテル
ボブ・ルアーズ(前オランダ上院議員、オランダ・アスベスト協会創設者、弁護士[オランダ])

討論

09:30 - 10:30, 第2会議室

ワークショップH: 造船とアスベスト

座長:三浦溥太郎、クラウディオ・ピアンチ

- WS-H-01 アスベストと造船所
クラウディオ・ピアンチ(イタリア対がん協会環境がん研究センター[イタリア])
- WS-H-02 アメリカの造船所:大量アスベスト曝露と疾患の歴史
ジェームズ・フィット(白い肺協会(WLC)[アメリカ])
- WS-H-03 造船の町の直面している課題
アンディ・ホワイト(ウエスト・ダンバートン市議会[イギリス])
- WS-H-04 三浦半島における造船労働者の中皮腫
稲瀬直彦(横須賀共済病院[日本])
- WS-H-05 A造船所における胸部レントゲン所見および石綿関連疾患
春田明郎(横須賀中央診療所[日本])
- WS-H-06 横須賀における被災者の掘り起こしの取り組み
林充孝(じん肺アスベスト被災者救済基金[日本])

ポスター・セッション

2004年11月19日(金)

12:30 – 18:30 (16:00-17:00 質疑応答時間), 第3会議室

2004年11月20日(土)

09:30 – 18:30 (16:00-17:00 質疑応答時間), 第3会議室

2004年11月21日(日)

09:30 – 12:30, 第3会議室

- PS-01 アスベスト関連ハザードの予防への寄与
イワンチカ・トロシク(医学研究・労働衛生研究所[クロアチア])
- PS-02 4人の妻とひとりの弁護士
マリー・ニコル他(アスベスト・アウエアネス・ウェールズ[イギリス])
- PS-03 アスベスト及びシリカへの職業曝露による疾病・死亡に対する補償のモデル: 労災補償(粉じん疾患)法1942-1967年
ジェフ・ランスレー(ニュー・サウス・ウェールズ粉じん疾患補償基金[オーストラリア])
- PS-04 アスベスト起因肺がんの補償を受けたNSW粉じん疾患基金請求者に関するレビュー: 1998-2003年
レベッカ・ハイランド(ニュー・サウス・ウェールズ粉じん疾患補償基金[オーストラリア])
- PS-05 オーストラリア・ニューサウスウェールズ(NSW)における中皮腫の発症率
アンソニー・ジョンソン(ニュー・サウス・ウェールズ粉じん疾患補償基金[オーストラリア])
- PS-06 ルーマニアのいくつかの産業におけるアスベストへの職業曝露
ロディカ・ドミトル(ブカレスト公衆衛生研究所労働衛生部[ルーマニア]) [不参加]
- PS-07 ポーランドにおけるアスベスト加工工場労働者の医学検査の管理及び協力: AMIANTUSプロジェクト
ネオニーラ・スゼスゼニア-ダブロウスカ(ノファー職業病研究所[ポーランド])
- PS-08 石綿肺により補償を受けた労働者における悪性及び非悪性の死亡率
ネオニーラ・スゼスゼニア-ダブロウスカ(ノファー職業病研究所[ポーランド])
- PS-09 “ポーランドにおいて使用されるアスベスト及びアスベスト含有製品の根絶” 政府のプログラム
スタニスラバ・スザルーチャ(環境省労働社会政策省[ポーランド])
- PS-10 空調・配管工事従事者における胸部病変の検討
高山重光(管工業健康保険組合健康管理センター[日本])
- PS-11 阪神大震災によるアスベスト被害の経験と教訓
中地重晴(環境監視研究所・有害化学物質削減ネットワーク(Tウオッチ)[日本])
- PS-12 建設解体现場における気中石綿濃度測定と曝露防止対策
外山尚紀(東京労働安全衛生センター・作業環境測定士[日本])
- PS-13 水俣の悲劇からJOSHRCの創立へー日本の労働組合では新しいスピリットが誕生
ポール・ジョバン(INSERM, パリ第7大学[フランス])
- PS-14 アスベスト単独の量－反応関係を上回るアスベスト肺罹患の肺がんリスクに対する影響
アリソン・レイド(ウエスタン・オーストラリア大学人口衛生学部[オーストラリア])
- PS-15 港湾でのアスベスト曝露と胸膜中皮腫
クラウディオ・ピアンチ(イタリア対がん協会環境がん研究センター[イタリア])
- PS-16 船舶解撤におけるアスベスト曝露
クラウディオ・ピアンチ(イタリア対がん協会環境がん研究センター[イタリア])
- PS-17 補償のための国際的標準に向けて: アスベスト曝露の人間への影響評価への総体論的アプローチ
ランディ・ブラウン(ケープタウン大学公衆衛生・家庭医学校労働・環境衛生部[南アフリカ])
- PS-18 怒りを行動に変えて
リンダ・ラインスタイン(アスベスト疾患啓発協会(ADAO)[アメリカ])
- PS-19 ベトナムの屋根材工場におけるアスベスト使用の現状
グエン・バトアイ(ハノイ大学土木工学部[ベトナム])
- PS-20 既存アスベスト・セメント製品の修理と維持管理に関する新しい規格
アンディ・オバータ(環境コンサルタント, ASTMインターナショナル・アスベスト管理作業グループ[アメリカ])

- PS-21 アスベスト禁止カナダ(BAC)
カイヤ・センテス(アスベスト禁止カナダ(BAC) [カナダ])
- PS-22 アスベスト肺と癌が11のアスベスト企業で働くエジプト労働者をのみこむ
ラーマ・マホメッド・レファット(弁護士、労働組合・労働者サービス・センター [エジプト])
- PS-23 パキスタンとタイにおけるアスベストの写真
ノア・ジーハン(ペシャワール大学環境科学部 [パキスタン])
- PS-24 正義を求めて
コリン・ハーネイ(北アイルランド・アスベスト被災者に正義を [イギリス])

ILO2000ワークショップ

2004年11月20日(土)
16:00-17:30, 第2会議室

ILO2000国際じん肺X線標準フィルムワークショップ
提供: 日下幸則(福井大学医学部国際社会医学講座環境保健学領域 [日本])

写真展

静かな時限爆弾＝アスベスト:被災者からのメッセージ

2004年11月19日(金)
09:30 - 18:30, 1階ホール
2004年11月20日(土)
09:30 - 18:30, 1階ホール
2004年11月21日(日)
09:30 - 12:30, 1階ホール

静かな時限爆弾＝アスベスト:被災者からのメッセージ
今井明(カメラマン [日本])

— Together for the Future — ビジュアル・メッセージ展

2004年11月19日(金)
12:30 - 18:30, 第3会議室
2004年11月20日(土)
09:30 - 18:30, 第3会議室
2004年11月21日(日)
09:30 - 12:30, 第3会議室

展示ブース

2004年11月19日(金)
12:30 - 18:30, 第1会議室・3階ロビー
2004年11月20日(土)
09:30 - 18:30, 第1会議室・3階ロビー

2004年11月21日(日)

09:30 - 12:30, 第1会議室・3階ロビー

出展者: (株)エスポワール/明星工業(株)/日本トリート(株)/(株)コンステック/(有)神林興業/
(株)藤林商会/(株)浦賀興業/(株)重松製作所/(株)プラネックス/アゼアス(株)/ニルフ
ィスク アドバンス(株)/旭・デュポン フラッシュスパン プロダクツ(株)
中皮腫・じん肺・アスベストセンター/中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会

インターネットルーム

2004年11月19日(金)

12:30 - 18:30, 市島記念会議室

2004年11月20日(土)

09:30 - 18:30, 市島記念会議室

2004年11月21日(日)

09:30 - 12:30, 市島記念会議室

ウエルカム・パーティ

2004年11月19日(金)

20:00 - 21:30, 早稲田大学生協“大隈ガーデンハウス”

参加者数:300名

余興:和太鼓愛好会「新田太鼓」

懇親会

2004年11月20日(土)

20:00 - 21:30, リーガロイヤルホテル東京3階“ロイヤル・ホール I ”

参加者数:250名

余興:梅后流「江戸芸かつぼれ」、森英記さん



海外参加者

アルゼンチン (Argentina)

スザーナ・イザベル・ミュールマン (建築士、ブエノスアイレス市アスベスト除去手順・法的側面アドバイザー [アルゼンチン])

オーストラリア (Australia)

アリソン・ライド (ウエスタン・オーストラリア大学公衆衛生学部 [オーストラリア])

アンドリュー・ジェームズ・ファーガソン (建設・森林・鉱山・エネルギー労働組合ニュー・サウス・ウェールズ支部建設部会州書記 [オーストラリア])

アンソニー・ジョンソン (ニュー・サウス・ウェールズ粉じん疾患補償基金プロジェクト・コーディネーター [オーストラリア])

ブルース・スタンレー・ロビンソン (ウエスタン・オーストラリア大学医学部教授 [オーストラリア])

デヴィッド・ジョン・マーチン (ニュー・サウス・ウェールズ粉じん疾患裁判所書記 [オーストラリア])

デボラ・バランス (オーストラリア製造業労働組合全国安全衛生コーディネーター [オーストラリア])

ジェフ・ランスレー (ニュー・サウス・ウェールズ粉じん疾患補償基金事務局長 [オーストラリア])

グレッグ・カウフマン (ニュー・サウス・ウェールズ粉じん疾患補償基金 [オーストラリア])

グレゴリー・デリユール (オーストラリア・アスベスト疾患協会 (ADSA) 医学アドバイザー [オーストラリア]) [不参加]

イアン・ジェメル (建設・森林・鉱山・エネルギー労働組合ニュー・サウス・ウェールズ支部建設部会役員 [オーストラリア])

ジョン・ローレンス・オミーリー (判事、ニュー・サウス・ウェールズ粉じん疾患裁判所所長 [オーストラリア])

ローライン・ウニフレッド・ケンパー (『私に寄り添って：介護者からみたがん』著者 [オーストラリア])

リンダ・ジェーン・コンシディン (アデレード大学研究生 [オーストラリア])

メアリー・ウエアリン (ニュー・サウス・ウェールズ粉じん疾患裁判所 [オーストラリア])

ニコラス・マクスウェル (ニュー・サウス・ウェールズ粉じん疾患裁判所オミーリー判事アソシエート [オーストラリア])

レベッカ・アメリア・ハイランド (ニュー・サウス・ウェールズ粉じん疾患補償基金研究助手 [オーストラリア])

リチャード・バックレー (弁護士、マクローリン&リオードン法律事務所 [オーストラリア])

リチャード・ミーラン (弁護士、スレーター&ゴードン法律事務所 [オーストラリア]) [不参加・論文提出]

シルビア・キズィアク (ニュー・サウス・ウェールズ粉じん疾患補償基金研究助成基金代表 [オーストラリア])

ティム・ハモンド (弁護士、スレーター&ゴードン法律事務所パートナー [オーストラリア])

オーストリア (Austria)

ハインツ・クロピュニック (アエタス建築設計事務所マネージング・ディレクター [オーストリア])

クラウディア・シュヌダール (アエタス建築設計事務所調査部長 [オーストリア])

ピーター・ピルス (オーストリア労災補償基金 (AUVA) 副医療部長 [オーストリア])

バングラディシュ (Bangladesh)

チャウドリー・ラシッド・レーボン (バングラディシュ労働安全衛生環境財団事務局長 [バングラディシュ])

ムドゥ・バドゥル・ザ (被服縫製労働者連盟 (GTWL) 書記長 [バングラディシュ])

カザール・カビール (被服縫製労働者連盟 (GTWL) 副委員長 [バングラディシュ])

ベルギー (Belgium)

ジャスティン・ダーデン (CSCパチメントETインダストリー国内責任者 [ベルギー])

ヘンドリック・バービュアー (ティースプーン・プロダクション・カメラマン [ベルギー])

ローラン・ボーゲル (ヨーロッパ労連 (ETUC) リサーチ・オフィサー [ベルギー])

マーク・シェリンガアウト (ティースプーン・プロダクション・カメラマン [ベルギー])

ブラジル (Brazil)

フェルナンダ・ギアナージ(労働安全衛生監督官、アスベスト曝露者協会[ブラジル])
ヒルマーノ・カストロ(CESTEH/ENSP/FIOCRUZ合同プロジェクト(オズワルド・クルツ財団)[ブラジル])[不参加・論文提出]

カナダ(Canada)

カイル・センテス(アスベスト禁止カナダ(BAC)[カナダ])

ロッシュ・ランシエール(ケベック・アスベスト被災者協会(AVAQ)スポークスマン[カナダ])

中国(China)

リー・タオ(李涛)(中国疾病予防控制中心職業衛生与中毒控制所所長[中国])

リ・デホン(李德鴻)(中国疾病予防控制中心職業衛生与中毒控制所[中国])

パン・ゼンチェン(青島疾病予防控制中心所長[中国])

チャン・フアシャン(青島疾病予防控制中心事務局長[中国])

チャン・シン(張幸)(浙江省医学科学院院長[中国])[不参加・論文提出]

クロアチア(Croatia)

イワンチカ・トロシツク(医学研究・労働衛生研究所上級研究員[クロアチア])

エジプト(Egypt)

ラーマ・マホメッド・レファット(弁護士、労働組合・労働者サービス・センター・プログラム・コーディネーター[エジプト])

フィンランド(Finland)

アンティ・トサバイネン(フィンランド労働衛生研究所(FIOH)産業衛生・毒物学部門副部長[フィンランド])

フランス(France)

アニー・デボモニ(国立衛生医学研究所(INSERM)現代社会公衆衛生問題研究所(CRESP)研究部長[フランス])

ポール・エティエンヌ・ジョバン(国立衛生医学研究所(INSERM)、パリ第7大学助教授[フランス])

香港(Hong Kong)

サンジ・パンディタ(アジア・モニター・リソース・センター(AMRC)労働安全衛生オフィサー/労働災害被災者の権利のためのアジア・ネットワーク(ANROAV)[香港])

チャン・カンホン(劳工傷亡權益会(ARIAV)総幹事[香港])

イラン(Iran)

レザ・ゴーラムニア(ウロミナ医科大学[イラン])[不参加・論文提出]

インド(India)

アナップ・スリバスタバ(国際建設木産労働組合連盟(IFBWW)ニューデリー事務所プロジェクト・スタッフ[インド])

アショカ・クマー・カブール(シュリ・グル・デブ診断センター所長・コンサルタント[インド])

ゴパール・クリシュナ(アスベスト禁止インド(BANI)、トキシック・リンク、コーディネーター-上級プログラム・オフィサー[インド])

マドゥカー・カシナス・バンディー(インド労働組合センター会長[インド])

マンガブハイ・ナサブハイ・パテル(石綿肺被災者、グジャラート州アヘンダバード[インド])

マニユサミ・サブ라마ニヤム(タミルナードゥ州建設労働組合(TMKTS)書記長[インド])

プラビン・ワウ(マハラシュトラ建設木産労働組合(MBLKS)委員長[インド])

ラグナス・カサルジ・マンバール(労働安全衛生協会事務局長、グジャラート州アヘンダバード[インド])

レッカ・ジョシ(婦人科医[インド])

サティシュ・クマー・アガーワル(マウラナ・アザド医科大学附属ロク・ナヤク&GBパント病院医学部部長教授・所長[インド])

ツシャ・カン・ジョシ(労働・環境保健センター所長/プロジェクト・ディレクター[インド])

インドネシア (Indonesia)

ズルミアール・ヤンリ(インドネシア共和国労働・移住省労働衛生監督局長[インドネシア])

イタリア (Italy)

カルロ・マーモ(トリノ・ピエモンテ地区疫学ユニット疫学・医学博士[イタリア])

カロライナ・メンシ(ミラノ大学労働衛生学部公衆衛生[イタリア])[不参加・論文提出]

クラウディオ・ピアンチ(イタリア対がん協会環境がん研究センター所長[イタリア])

韓国 (Korea)

イ・ジンスク(建設産業労働組合連盟(KFCITU)プロジェクト・コーディネーター[韓国])

ペク・トンミョン(白道明)(ソウル大学保健大学院産業保健学教授[韓国])

マレーシア (Malaysia)

アボリナー・Z・トレンティノー・ジュニア(国際建設木産労働組合連盟(IFBWW)アジア太平洋地域事務所
教育オフィサー[マレーシア])

シンガラム・サンタナサミー(建設産業労働組合(UCCI)書記長[マレーシア])

サンビヤッパ・ジャヤバラ(ペナン消費者協会[マレーシア])

オランダ (Netherlands)

ボブ・ルアーズ(前オランダ上院議員、オランダ・アスベスト協会創設者、弁護士[オランダ])

カマーピーク・アネット([オランダ])

ノルウェー (Norway)

スベレ・ランガード(リクスホスピタレ大学病院労働・環境医学センター[ノルウェー])[不参加]

パキスタン (Pakistan)

ノア・ジーハン(ペシャワール大学環境科学部助教授[パキスタン])

フィリピン (Philippine)

アレクサンダー・レデスマ・ラクソン(弁護士、スービック・アスベスト肺被害者協会、基地汚染除去対策市民
会議[フィリピン])

パラルカ・メイナルド(全国建築建設労働組合書記長[フィリピン])

ポーランド (Poland)

イエジー・ルドルフ・ダイチェ(クラクフ鉱山・冶金工科大学建材工学部部長・教授[ポーランド])

ネオニーラ・スゼスゼニア・ダブロウスカ(ノファー職業病研究所教授[ポーランド])

スタニスラバ・スザルーチャ(経済労働社会政策省メイン・スペシャリスト[ポーランド])

ウイスロワ・ボグチン(経済労働社会政策省課長[ポーランド])

ルーマニア (Romania)

ロディカ・スタネスク・ドミトル(ブカレスト公衆衛生研究所労働衛生部科学リサーチャー[ルーマニア])[不
参加・ポスター提出]

シンガポール (Singapore)

ヤオ・カーキャウ(建設木材産業従業員組合労使関係部長[シンガポール])

南アフリカ (South Africa)

フレッド・ゴーナ(全国鉱山労働組合議会担当オフィサー[南アフリカ])

ロバート・リャン・ジョーンズ(ロードス大学環境科学学部研究員・環境コンサルタント[南アフリカ])

サイモン・ムダカ(全国鉱山労働組合議会担当オフィサー[南アフリカ])

ソフィア・キスティング(ケープタウン大学公衆衛生・家庭医学校労働・環境衛生部[南アフリカ])[不参加]

スウェーデン (Sweden)

アンダー・ス・エングランド (ウメ大学公衆衛生臨床医学部労働医学科 [スウェーデン])

グンナー・ヒラーダール (カロリンスカ大学病院胸部医学部教授 [スウェーデン])

スイス (Switzerland)

フィオーナ・マリー・メアリー (国際建設木産労働組合連盟 (IFBWW) 安全衛生環境部長 [スイス])

台湾 (Taiwan)

チャン・ヤティン (台湾工作傷害受害人協会 (TAVOI) [台湾])

ホ・クアンワン (賀光汎) (台湾工作傷害受害人協会 (TAVOI) [台湾])

リー・ジュンカイ (台湾工作傷害受害人協会 (TAVOI) [台湾])

タイ (Thailand)

アニルス・マノサム (ラジャバット・プーケット大学講師 [タイ])

ジェスファー・クリステンセン (アジア労働者安全衛生環境研究所 (OHSEI) 主任技術アドバイザー/所長 [タイ]) [不参加・論文提出]

ナロン・コンデウアイカヨー (国立労働条件環境改善研究所 (NICE) 技術スペシャリスト [タイ])

サラ・アルフォン (マヒドン大学公衆衛生学部労働安全衛生部講師 [タイ])

シリサク・クンピラノン (トーア・ペイント (タイ) 労働安全衛生環境副責任者 [タイ])

ソムキヤット・スリルタンナプラク (タイ政府公衆衛生省労働衛生部調査開発課課長 [タイ])

ワンペン・ソンハム (チェンマイ大学看護学部公衆衛生部インストラクター [タイ])

ウィザンチ・ラオハデマクホック (国立労働条件環境改善研究所 (NICE) 技術スペシャリスト [タイ])

イギリス (UK)

アンディ・ホワイト (ウエスト・ダンバートン市議会リーダー [イギリス])

アン・ハウエルズ (アスベスト・アウエアネス・ウェールズ資金調達担当 [イギリス])

カロライナ・クック (アスベスト・アウエアネス・ウェールズ会計係 [イギリス])

コリン・ハーネイ (北アイルランド・アスベスト被災者に正義を運営委員 [イギリス])

デビッド・コレレン (クライドバンク・アスベスト・グループ副会長、スコットランド [イギリス])

フィオーナ・エリザベス・スターリット (北アイルランド・アスベスト被災者に正義を企業担当 [イギリス])

ローリー・カザンアレン (アスベスト禁止国際書記局 (IBAS) コーディネーター [イギリス])

リンダ・ウォルドマン (サセックス大学開発研究所フェロー [イギリス])

ジャネット・メアリー・ロジャーズ (アスベスト・アウエアネス・ウェールズ代表 [イギリス])

ジョン・フランシス・フラナガン (マージーサイド・アスベスト被災者支援グループ (リバプール) 教育情報オフィサー [イギリス])

ジョセフ・オニール (クライドバンク・アスベスト・グループ会計担当、スコットランド [イギリス])

ジューン・ブラウン (北アイルランド・アスベスト被災者に正義を [イギリス])

マリー・キャラガン・ニコル (アスベスト・アウエアネス・ウェールズ事務局 [イギリス])

マックス・ロパッキ (全国アスベスト・トレーニング・認証計画 (NATAS) 所長 [イギリス]) [不参加]

ミック・ホルダー (ロンドン・ハザーズ・センター [イギリス])

アメリカ (USA)

アンディ・F・オバータ (環境コンサルタント、ASTM国際ナショナル・アスベスト管理作業グループ [アメリカ])

アーサー・L・フランク (ドレクセル大学公衆衛生学教授 [アメリカ])

バリー・キャッスルマン (環境コンサルタント [アメリカ])

デヴィッド・A・レヴィー (弁護士、サイモンズ・クーパー法律事務所 [アメリカ])

ジェームズ・フランクリン・フィット (白い肺協会 (WLC) 全国書記 [アメリカ])

リンダ・ラインスタイン (アスベスト疾患啓発協会 (ADAO) 事務局長/共同設立者 [アメリカ])

ルーク・カフェー (ダートマス大学インストラクター/研究員 [アメリカ])

マーデル・ナイト (メリーランド州政府環境局 [アメリカ])

ミシェル・オリヴィア・ハックス・フィット(白い肺協会(WLA) [アメリカ])
ステファン・レービン(マウントサイナイ医科大学アーヴィングJセリコフ労働・環境医学センター世界貿易センター労働者・ボランティア医学スクリーニングプログラム共同代表 [アメリカ])
鈴木康之亮(マウントサイナイ医科大学教授(地域・予防医学及び病理学) [アメリカ])

ベトナム(Vietnam)

ダン・ディンティ(国立労働保護研究所(NILP) 副国際協力部長 [ヴェトナム])

ゲン・バトアイ(ハノイ工科大学 [ヴェトナム])

グイ・ゴックトアン(国立労働保護研究員(NILP) 研究院 [ヴェトナム])



2004年世界アスベスト東京会議における 国際建設労働組合組織の共同宣言

国際建設木産労働組合連盟(IFBWW)、国際建設労働者連合(WFBW)、建築木材建築資材労働組合インターナショナル(UITBB)は、建設産業、そして全ての他の産業部門からの、すべての種類のアスベストの世界的な禁止を積極的に促進し、また、解体、改造、修繕およびメンテナンス作業におけるその場のアスベストに関わる作業の実効性のある規制を促進するために最大の努力を払っている。

- クリノタイルを含む、すべての種類のアスベストは、国際がん研究機関(IPCS)および国際化学物質安全性計画(IPCS)によって、既知の人間に対する発がん物質に分類されていること
- クリノタイル・アスベストの90%が、アスベスト・セメント製品に使用されていること
- 毎年、10万人の労働者が、アスベスト曝露に起因する疾病によって死亡していること
- 多くの国でアスベストおよびアスベスト含有製品の製造および使用の包括的な禁止が採用されるまでに、長期間にわたる努力と適切な代替品の出現に30年間を要したこと。また、これらの諸国は現在、解体、改造、修繕およびメンテナンス作業中に、厳格に管理された作業条件のもとで、その場のアスベストを取り扱うことしか認めていないこと

以上に鑑み

IFBWW、UITBBおよびWFBWは、すべての国の政府および社会パートナーに対して、以下のことを求める。

- 可能な限り速やかに、すべての種類のアスベストおよびアスベスト含有製品の採掘、製造、使用および再利用を禁止する迅速な措置をとること
- 経済循環からアスベストおよびアスベスト含有製品を根絶し、また、アスベストをより有害でない製品に代替することを目的としたあらゆる手段を実行に移し、また支持すること
- アスベスト曝露からの労働者の防護を優先課題とすること
- アスベストの使用における安全に関するILO第162号条約(1986年)を批准、実行し、また、付属の第172号勧告の諸条項を、それを下回ってはならない最低基準として実行すること
- アスベスト関連疾患の被災者に対する適切な補償を確保すること

IFBWW、UITBBおよびWFBWは、また、国際労働機関(ILO)に対して、以下のことを求める。

- すべての種類のアスベストおよびアスベスト含有製品の使用の根絶を支持する、明確な衛生の観点に基づいた立場をとること
- 加盟国に対して、アスベストの使用における安全に関するILO第162号条約(1986年)を批准、実行し、また、付属の第172号勧告の諸条項を、それを下回ってはならない最低基準として実行するよう、促進し続けること
- 加盟国に対して、第162号条約が、アスベストの使用の継続の正当性あるいは裏打ちを与えるものではないということを明らかにする、明示的な見解を示すこと
- すべての加盟国において、すべての種類のアスベストおよびアスベスト含有製品の使用の根絶を促進する決断をすること
- 労働環境および社会環境において、アスベストを管理、規制し、根絶するための国の行動計画を策定することによって、加盟国を支援すること

以上

※IFBWWは国際自由労連(IFBWW)加盟、WFBWは国際労連(WCL)加盟、UITBBは世界労連(WFTU)加盟の、国際建設労働組合組織

東京宣言

世界の40余の国と地域から、2004年11月19日から21日まで2004年世界アスベスト東京会議（GAC2004）に集まった参加者は、立証された発がん物質であるアスベストのすべての種類による破壊的な健康への影響に鑑み、各国の政府、団体、グループと人びとに対して、次のようなアピールを発する。アスベスト・リスクを根絶するための国際的なイニシアティブを強調しつつ、参加者はさらにそれらを強固なものにするために緊急な行動を起こしていくことに同意する。

① **禁止：**

すべての国が、アスベストの採掘、使用、貿易、再利用の禁止を採用すべきである。確立された規則と手順に従って、アスベストの安全な除去と廃棄が行われなければならない。

② **労働者及び一般の人々の保護：**

アスベスト含有製品に曝露する可能性のある労働者および一般の人びとは、それらの人々自身が積極的に参加して開発された適切なリスク・マネジメント手段によって保護されなければならない。環境的に損傷を受けた地域の回復も、優先して取り組まなければならない。

③ **代替品：**

より有害性が少く、かつ実用可能であることに十分配慮しながら、アスベストの代替品が使用されるべきである。

④ **情報交換：**

国際機関、関連団体と関心をもつ人々との共同作業によって、すぐに利用できる情報資料を開発し、普及すべきである。注意を喚起するキャンペーンが、継続的かつ組織的に取り組まなければならない。

⑤ **公正移行及び開発途上国への移転の防止：**

アスベストの禁止によって影響を受ける労働者および地域社会のための公正な移行と社会的保護を確実にするために、あらゆる努力がなされるべきである。産業開発の進行中の諸国に対する、アスベスト生産とアスベスト製品および廃棄物の移転を、共同の努力によって、阻止しなければならない。

⑥ **補償及び治療：**

アスベスト被災者およびその家族が、速やかに治療を受け、正当な補償が受けられるようにしなければならない。地域でのキャンペーンに参加し、また直接に行動を起こすことを通じた、被災者とその家族のエンパワーメントに、高い優先順位が与えられるべきである。

⑦ **人々の協力：**

国際的な協力が不可欠である！被災者、労働者、一般の人びと、政策立案者、専門家、弁護士、労働組合、草の根団体、関連機関および関心をもつ人びとの積極的な参加が求められている。この協力により成果のあがった経験は、既存および革新的なネットワークを通じて共有されるべきである。

地球上のすべての人々のためのアスベストのない環境に向けた、国際的行動を持続していくためには、上記のすべての分野における進展状況を、継続的かつ世界的にモニターしていくことがきわめて重要である。未来のためにも行動することによって、私たちは変化を起こすことができるし、変化を起こさなければならず、そして変化を起こしていくと決意する。